疾患名

重度血液型不適合妊娠

病気について

母親と胎児との血液型が異なる場合に、母体の血液中に胎児の赤血球に対する抗体が存在している場合を血液型不適合妊娠といいます。胎盤を通じて胎児の赤血球が破壊され、胎児に貧血による心不全、胎児水腫を生じる病態です。

治療について

胎児の貧血に対し、妊娠18～20週以降は子宮内胎児への輸血が行われますが、妊娠18～20週まで、もしくは輸血が困難な場合には、血漿交換による母体の抗体の除去や免疫グロブリン製剤大量投与などが行われます。

アフェレシス療法の適用とその実施

保険適用：あり（血漿交換の適応は、Rh式血液型不適合妊娠による胎内胎児仮死または新生児黄疸の既往歴のある場合）
アフェレシス療法の種類：血漿交換または二重濾過血漿分離交換、免疫吸着法
回数：妊娠18～20週になり子宮内胎児輸血が可能となるまで週2～3回、抗体価を目安に行います。